

CONTENTS

教育研究発表会 2015のお知らせ

- 2015 教育研究会開催にあたり……………1
- 2015 教育研究会各授業の PR……………2・3・4・5・6

ご挨拶

長い夏休みも終わって、二学期が始まり、学校や教室には、子どもたちの元気な声に戻って来ました。「学びの秋」といわれる二学期にこそ、この目の前の子どもたちを大きく飛躍させていく学びを創り出していきたいと私たちは考えています。

ところで、ご承知のように、現在、学習指導要領の改訂作業が進行しており、平成28年度中には、まず最初に、小学校の新しい学習指導要領が答申される予定といわれています。そのキーワードの一つが、アクティブ・ラーニングです。ここでいうアクティブ・ラーニングとは、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」とされていますが、ここには3つのポイントがあります。第一は、単なる知識の記憶の学びではなく、問題解決に開かれた学びだということです。第二は、「主体的な学び」で、子どもが自らの「問い」を持って進める学びだということです。そして、第三の、「協働的な学び」とは、教室と仲間とつながりながら、対話を介して深められる「学び合い」のことです。

だとするのであれば、こうしたアクティブ・ラーニングという言葉を通して示されている学びの課題は、本校が戦後一貫して大切にしてきたものを改めて現代の課題として提示したものといえるのではないのでしょうか。

私たちは、このような思いと自負を持ちながら、昨年度までの「学びをデザインする子どもたち」という課題意識を引き継ぎつつ、今年度、新しく「問い続け、学び続ける子どもたち」をテーマに掲げて、教育研究発表会を開催することにいたしました。

この新たなテーマの下、公開授業を行うとともに、深い子ども理解からの学びの創造に取り組まれている鹿毛雅治先生（慶應義塾大学教授）をお迎えし、講演を予定しています。

お忙しい折ではありますが、皆様お誘い合わせの上、多数ご参会くださいますようご案内申し上げます。

和歌山大学教育学部附属小学校長 船越勝

研究テーマ「問い続け、学び続ける子どもたち」

期 日 平成27年10月31日(土)

日 程	8:00	8:50	9:50	10:45	12:30	13:50	14:30	16:10	
	受付	研究授業 I	移動	研究授業 II	移動	協議会	昼食	全体会 概要発表	講演



主催・会場 和歌山大学教育学部附属小学校
後 援 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会
和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 和歌山県連合小学校校長会

鹿毛 雅治先生

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 PR
2-C 国語	湯浅 明菜 2Cおはなしの国 がまくんと かえるくんの 毎日を 読もう 「お手紙」	<p>読書大好き！音読大好き！な2Cです。作品を読んで想像したことを音読につなげて学習しています。「お手紙」に登場するがまくんとかえるくんは、いつも一緒。わがままだったり、友だちのために一生懸命になったり、2年生の子どもたちの姿に重なるところがたくさんあります。お話を読んで、また、友だちの話や音読をきいて、「おもしろいな」「分かる分かる、その気持ち」「へえ、そうなんだ」を自分の中に見つけます。がまくんとかえるくんシリーズで2人の毎日を読み、音読しながら楽しめます。</p>
3-A 国語	中村 正雄 三年とうげ ～3Aお話ミュージ アムを作ろう～	<p>1学期は、「もうすぐ雨に」を通してファンタジーの世界を味わいました。子どもたちの「もっといろいろな本を読みたい」という気持ちがあふれる3Aです。今回は、「三年とうげ」を通して民話や物語の面白さを感じられるように迫っていきたいと思います。子どもたちの「どうなるの」「読みたい」と思えるような物語の世界を表現できればと思います。教室がお話のミュージアムになるような工夫をしたいと考えています。</p>
6-B 国語	小杉 栄樹 やまなし ～賢治見つけ をしよう～	<p>今年度6Bは「宮沢賢治の世界」に浸ります。「賢治見つけ」を単元を貫く言語活動と位置づけ学習を進めます。第一期、「イーハトーヴの夢」の学習から賢治の生き方、考え方に迫りました。第二期、賢治作品の「読み語り」にチャレンジしました。教育研究発表会では、第三期として、「やまなし」の作品世界に浸ります。一人一人の学びの足跡を大切にしながら、「やまなし」の主題に迫ります。さらに、第四期、卒業論文「ぼくのわたしの宮沢賢治論」を書くことで学習のまとめとします。6Bの子どもたちと一緒に「宮沢賢治の世界」を堪能していただければ幸いです。</p>
1-C 生活	田中 千映 大すき ふぞくしょう学校 ～学校うろちょろたん けんたい どんな おしごとをしてくれ ているのかな～	<p>1Cでは、「大すき ふぞく小学校」を大きな単元として、1年間取り組んでいます。1学期は、学校探検をして見つけたことや学校でのお気に入りの場所を紹介し合い、学校の様々な場所へと関心が広がってきました。2学期は、学校生活を支えてくれている先生たちへと広げます。“学校うろちょろたんけんたい”となって、先生方がどんなお仕事をしてくれているのか、1Cみんな探っていきたいと思います。</p>
2-A 生活	横瀬 文子 もっと知りたいな町 のこと ～和歌山城を支え る人々～	<p>1学期は町たんけんを通して、学校の近くにあるお団子屋さんについて調べてきました。2学期は、もっと町のことを知るために、和歌山城を2Aたんていだんが調査します！本時では、和歌山城にいる忍者の仕事に目を向け、それぞれが気付いたことを話し合いたいと思います。この話し合いを通して、忍者を始め、和歌山城を支えている多くの人々の存在やその人々の思いに気づいていければと思います。</p>

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 PR
3-B 社会	矢出 大介 工場ではたらく 人々の仕事 ～つけもの工場の ひみつをさぐる～	<p>和歌山市にある漬物工場で働く人々の思いや工夫を追究していきます。工場見学に行った経験を活かして、自分の考えをしっかりと持ち、クラスのみならず学びを深めていきます。学習を進めていく中で、漬物工場が生産者（野菜農家）と消費者をつないでいることなど、いろいろな人たちと関わり、自分たちの生活を支えていることに気づいていく学びにしたいです。研究授業では、課題に向かって一人一人の子どもがクラスみんなと熱く話し合っていく姿を見てください。</p>
1-B 算数	野田 香織 ひき算（2）	<p>繰り下がりのあるひき算は、1年生の算数科の中でも特に難しい単元です。本単元を実践するにあたり、1年B組では「いくつといくつ」の学習だけではなく、その後も朝の会や授業で、数の分解をクイズやゲームを通して取り組んできました。授業では、この経験をもとに、子どもたちが自分の思いで数を分解しながら問題を解決しようとする姿をめざします。減加法、減々法を大切にしながらも一人一人の多様な考え方を認め合える授業をつくっていきます。</p>
2-B 算数	吉久 寛郎 かけ算（2）	<p>子どもたちが2年生になって一番楽しみにしている算数の学習が、「かけ算」です。その反面、習熟差もつきやすい単元となります。丁寧な学習に加え、子どもたちが主体的に学習に向かえる授業をめざします。かけ算（1）の学習を終えた子どもたちを、6の段以降では、自らの力で九九づくりに向かわせたい。既習をもとにしながら、アレイ図や数図ブロック、その他の絵図を用いて主体的に解決していこうという姿を見てください。</p>
5-B 算数	糸我 直人 変わり方	<p>「おやっ」「なぜだろう」と問いをもち、自分なりに絶えず思考し続け、それをもとに子どもたちが互いの考えを表現し合い、深めながら課題解決に向かう主体的な学びを目指しています。本単元では、伴って変わる2量について、きまりを見つけ、問題を解決します。一人一人が、考える楽しさを実感でき、友達の考えに耳を傾け、自分の考えをわかりやすく伝えていく姿を見てください。</p>
6-C 算数	小谷 祐二郎 資料の調べ方	<p>「非連続型テキスト」の代表的なものとして挙げられる表やグラフ。本実践では、算数科における非連続型テキストの読解力育成を提案したいと思います。度数分布表や柱状グラフをつくらたり読んだりする活動を通して、情報を正しく読み取ろうとする子どもたちの問い続ける姿を見て下さい。また、互いの解釈の違いを読み解こうとする子どもたちの学び続ける姿を見て下さい。</p>

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 PR
3-C 理科	<p>馬場 敦義 じしゃくのふしぎ ～磁石のふしぎをさ ぐるう～</p>	<p>磁石は子どもたちの身近にある素材です。しかし、目に見えない磁力がおよぼす様々な現象は実に不思議で面白く、子どもたちの知的好奇心を刺激します。本単元では、磁石を使って実験するだけではなく、子ども一人一人が体験しながら磁石の性質を感じることを通して、磁石そのものの不思議さやおもしろさを実感させていきます。自分たちで疑問を見つけ、予想をしながら、追究していくようにしていきます。</p>
4-A 理科	<p>久保 文人 もののあたたまり方 ～金属・水・空気の「な ぜ?!」を解決 4A研 究所～</p>	<p>これまで春と夏の生き物の様子や電気のパワーの「なぜ」を見つけ、それを調べてきた4Aの研究者たち。研究会でのテーマは、目に見えない「もののあたたまり方」です。実験で可視化し、考えを伝え合うことで「なぜ」を解決していきます。本時では水のあたたまり方を探ります。実験結果をもとに交流する子どもたちの姿をご覧ください。子どもたちの思考の流れを大切にしたい授業を目指します。</p>
5-C 理科	<p>西村 文成 ふりこの運動 ～ふりこ時計のひみ つ発見!～</p>	<p>今では見られなくなった振り子時計。この単元では、正確に時を刻むこの振り子時計から「振り子の運動」について学んでいきます。1秒・2秒の振り子時計を作っていくなかで、振り子のきまりを探っていきます。おもりの重さや振れ幅、糸の長さといった条件を変えることで、振り子の運動の規則性に気付いていきます。子どもたちは、より正確な振り子時計を作っていくために、時間に着目しながら振り子の運動の規則性を追究していきます。</p>
6-A 音楽	<p>居澤 結美 曲想を味わおう ～合奏に思いを のせて～</p>	<p>“曲想を味わおう”で学習してきた鑑賞や歌唱を生かして、『風を切って』の合奏を行います。曲想を生かすための表現を自分たちで考え、工夫していきます。表現をより豊かなものにするため、絵画（国語）にしたり、歌詞（国語）を読み深めたり、そしてスコアや音をもとにして、この世界のイメージを広げていきます。そして音楽で表現できる楽しさを味わい、喜びを感じ、これからの生活が豊かになることを感じられるような子どもたちの心が育まれることを願います。</p>
3-C 専科 音楽	<p>内垣 美佳 日本の音楽に親しもう ～おくやまばやしをつ くろう～</p>	<p>3年生になって学習し始めたリコーダーを使ってお祭りに奏されるお囃子の旋律づくりをします。1学期にリズムづくりをした子どもたち。学んだことを生かして、太鼓や鉦などでリズム伴奏を加え、自分たちのオリジナルお囃子「おくやまばやし」を工夫してつくります。それぞれがつくった旋律をつなぎ合わせながらクラスで1つのお囃子をつくる過程を通して、我が国に伝わる音楽に親しむ子どもの姿を目指します。</p>

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 P R
1-A 体育	<p>則藤 一起 ボール投げゲーム ～パスして ねらって 当てちゃおう！～</p>	<p>1学期の『的当て遊び』を思いっきり楽しんだ1A忍者たち。「背中を見せよう」と体をねじり、たくさんボールを投げました。今回は『的当てゲーム』から『攻防が分かれたゲーム』へと発展させ、ボールゲームを楽しみます。ボールを投げるだけでなく、捕る操作も必要になってきます。場の工夫と用具の工夫、ルールの工夫、そして、1Aの“みんなでふあいと”の合言葉とともに『ボール投げゲーム』をつくっていきます。</p>
4-C 体育	<p>渡辺 圭 ゴール型ゲーム ～みんな満足 4Cサッカー～</p>	<p>「サッカーきれい！」「バスケットはいいけどサッカーはちょっとなあ…」そんな思いをもつクラスの子どもたち。そんな声を大切に、みんなが満足できる4Cサッカーをめざして子どもたちと学びをつくっていきます。経験や体力などの個人差にどうアプローチし、一人一人の学びをつくっていくのか。その手立ての一つとして兄弟チームを設定します。ゲームを中心にドリルゲームやタスクゲームでのかかわり方をみとりながら次の支援を構想し、全ての子が満足できるサッカーの授業を展開します。</p>
5-A 図工	<p>上田 恵 動かそう アニメーションで</p>	<p>世界で高い評価を受けている日本のアニメーション。子どもたちも大好きなアニメーション。静止している絵やものをつなぎ合わせてアニメーションにしてみましょう。すると、実際にはありえない動きやできごとが、アニメーションの世界の中では実現できます。そのしくみに興味を持ち、グループで話し合いながら、ICTを使って、初歩的なオリジナルアニメーションを作りましょう。</p>
4-B 道徳	<p>山本 眞喜 資料 知らない間の出来事</p>	<p>情報ツールは、ある学年になると飛躍的に所有者が増えます。子どもたちは情報ツールを手にした時、何の備えもなしに情報過社会に入っていきます。一方、人の行動や判断は、今までに経験してきたことの延長でなされます。情報ツールを多くの子どもが手にしていない4年生の時だからこそ、情報ツールに潜む危険性を知っておく必要があると考えています。友達的心情を考えると、情報ツールの危険性にまで学習していきます。</p>
1・2 F 生活科	<p>中西 大 1年：広がれ笑顔 2年：これまでの私 これからの私 ～お仕事大作戦！～</p>	<p>家庭や学校における「仕事」を共通のテーマにし、自分たちにできることと家族との関わりについて考え、生活に必要な技能を身に付けられるようにしたいと思います。</p> <p>1年生は、自分が仕事をすることで周りの人とどのように関わることができ、どんな反応があったのか知ること、自分の大切さに気付かせたいと思います。2年生は、昨年度の仕事の様子を振り返りながら、仕事を通して自分の成長を確かめるとともに、新たな仕事に挑戦しようとする意欲につなげたいと思います。</p>

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 P R
3・4 F 国語科	宮脇 隼 3年：「モチモチの木」 4年：「ごんぎつね」 ～異学年で語り合う文 学の世界～	文学教材を深く味わうためには、一人でじっくりとその世界に入ることや、色々な考えをもった他者と関わることが大切です。子どもたち一人一人が、読み取ったことや考えを自分の生活や読書経験などをもとにしていきいきと語り合う、そんな学習にしたいと考えています。また、複式学級のよさを活かした、異学年の交流も大切にしていきたいと思います。4年生が「モチモチの木」を語ることはもちろん、3年生が「ごんぎつね」を語る！？そんな場面が子どもたちから主体的に生まれるような、子どもたちにとって忘れられない作品との出会いにしたいと考えています。
5・6 F 算数科	川村 繁博 5年「変わり方」 6年「場合を順序よく 整理して」	もし、算数が数字や記号の操作だけの世界だとしたらこんなにつまらないものはないでしょう。算数は、様々な算数的活動や思考の中での発見や創造があるからこそ楽しいものです。「あれっ」「なぜだろう」「もしも〇〇だったら…」そんな気持ちが生まれ、子どもたちの現実世界の現象と算数の世界が結びついたとき、子どもたちの主体的な学びが始まるのではないのでしょうか。子どもたちの中にある好奇心や探求心を揺さぶり学びに繋げる授業をめざします。

From Editors

『らいぶ・創りえいた一』も15年目を迎えました。

「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せくだされば幸いです。

編集委員：矢出，宮脇，中西，川村，久保，糸我，横瀬

ICT活用授業研究会 1月29日（金）

これまで、本校の ICT 活用研究会は「教科指導における ICT 活用」を中心に取り組んできましたが、本年度は「情報活用能力」や「情報モラル」の育成を目指した授業の研究にも取り組んでいます。



詳しくはホームページにも掲載します。是非ご参加くださいますよう、よろしく申し上げます。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-1

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp